

科(科目)	芸術(音楽I)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	1年次～
使用教科書	教育出版「音楽I改訂版 Tutti」				
副教材等	「改訂 音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社				

## 1 学習の到達目標

歌唱や器楽演奏などを通して、創造的な表現の能力を高めるとともに、豊かな感性と音楽を愛好する心情を育てる。

## 2 指導の重点

楽譜から楽曲のイメージをとらえることを目指す。

## 3 学習の計画

	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前 期	・歌唱 ・器楽 ・鑑賞	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	10	授業への 取り組み  出席状況
		・楽器の特徴にふさわしい表現をする。	15	
		・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	10	
後 期	・歌唱 ・アンサンブル(器楽) ・鑑賞 ・まとめ	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	10	
		・パートの役割を意識し、協力しあい合奏に参加する。	10	
		・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	10	
			5	

## 4 課題・提出物等

歌唱、器楽のテスト。プリント、感想文の提出。

## 5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	表現の創意工夫	音楽表現の技能	技能鑑賞の能力
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

## 6 担当者から一言

音楽の幅広いジャンルに興味を持って欲しいと思います。

教科(科目)	芸術(美術 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	光村図書「美術 1」				
副教材等					

## 1 学習の到達目標

芸術の幅広い創造活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

## 2 指導の重点

表現、鑑賞活動を通して、造形表現における基本的な知識・技術の習得を目指し、自己表現力を育てる。

## 3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・オリエンテーション ・レタリング ・色彩構成  ・抽象画	・「美術 I」の学習について、授業を受ける時の注意。 ・文字の描き方の基本を理解する。 ・色の三要素について理解し、色彩構成の基礎を学ぶ。 ・絵具の特性と塗り方の技法を学ぶ。 「発散・収縮」をテーマとして、色紙を使って色彩構成を行う。 ・モダンテクニックを使った抽象画の制作を通して、基本的な造形要素を理解し、構成の原理を学ぶ。 ・観察による描写。プロポーションを正確にとらえ、立体感を表現する。 ・主題に基づいて構想を練り、技法や材料の効果を主体的に生かして表現する。 ・生徒相互の作品を鑑賞し、相互評価を行う。	1 4 8 1 4 8	学習活動の様子  作品の内容 作品カード
後 期	・切り絵  ・立体模刻 ・鑑賞	・季節感をテーマとして、白黒のバランスを考えながら図柄を考える。 ・白黒のバランスを考えながら図柄を考える。 ・デザインカッターを使い、丁寧に切り抜きを行う。 ・粘土を使用して、立体感覚を養う。 ・自然物をよく観察し、主題に合った着彩を行う。 ・DVD や教科書を利用して、現代美術や、日本美術の特性について理解し、作品の鑑賞方法を学ぶ。 ・1年間の学習を振り返り、学んだことを整理する。	2 0 1 0 5	学習活動の様子 作品の内容 作品カード

## 4 課題・提出物等

各単元での作品提出

## 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や創造力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

## 6 担当者からの一言

主体的に授業に臨み、様々な単元の中で各自の造形体験を増やししながら、自己の感性や表現力を高めてください。

教科(科目)	芸術(書道 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	光村図書「書 I」				
副教材等					

## 1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

## 2 指導の重点

さまざまな書の美にふれ、表現技術を高め創作へといかにしていく。

## 3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆による表現の基礎</li> <li>漢字の書</li> <li>篆刻</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆の機能を理解して書く。</li> <li>楷書、行書を通して豊かな書の美を表現する。</li> <li>印を刻す技法を学ぶ。</li> </ul>	7	提出作品の 内容
			18	
			10	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の署</li> <li>仮名の書</li> <li>漢字かな交じり書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体構成、表現方法、用具用材を工夫していろいろなサイズの紙に制作する。</li> <li>かな技法と表現方法を通して日本の美を学ぶ。</li> <li>漢字と仮名の融合を図り、身近なコトバを工夫して表現する。</li> </ul>	10	提出作品の 内容
			12	
			13	

## 4 課題・提出物等

制作過程の作品、完成作品の提出。

## 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

## 6 担当者からの一言

学年末には創作作品に押印できるようにひとつずつ学んでいきましょう。